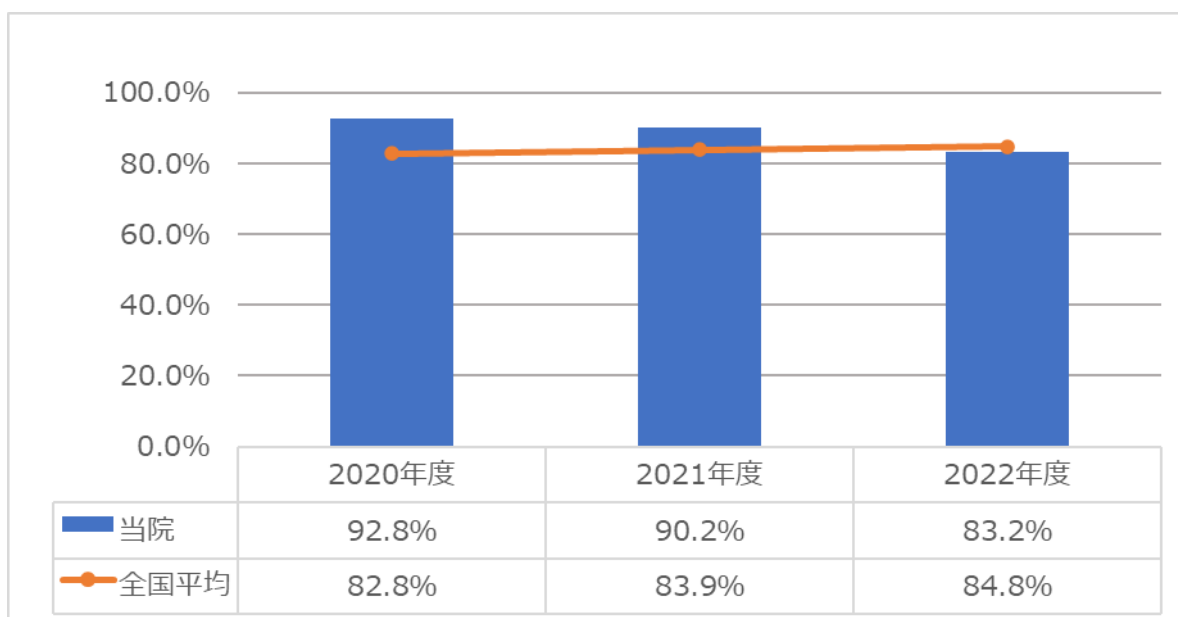


指標5 カルバペネム・ニューキノロン・抗MRSA薬使用時の培養検査実施率



<定義>

分子	分母のうち投与開始初日までに培養検査を実施した人数
分母	カルバペネム系注射薬、ニューキノロン系注射薬、抗MRSA薬（バンコマイシン内服は除く）投与を開始した入院症例数
期間	2020年度～2022年度（1年毎に集計）
対象	上記期間の退院患者
値の解釈	高い方が望ましい

<解説>

全国の他施設の平均と同レベルではあるが、年々実施率が下がってきている。抗菌薬の適正使用を行う上で重要な因子の一つであることから、上昇するように取り組む必要がある。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院QIP事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院のQIP参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/acts.html>（QIPにおける計測結果）